

第20回那覇地区中学校軟式野球春季1年生強化試合要項

1. 主 催

那覇地区中学校体育連盟野球専門部
2. 期 日

平成30年12月1日(土)～平成31年2月16日(土)
3. 日 程

平成30年12月1日(土)～平成31年2月16日(土) 1回戦～3回戦
平成31年2月16日(土) 競技開始 9:00(準決勝・決勝戦)
予備日 2月17日(日)
4. 会 場

平成30年12月1日(土)～平成31年2月16日(土) 当該校で調整
平成31年2月16日(土) 調整中
5. 申込締切日

平成30年10月19日(金)までに専門部長へ参加の有無を回答する
7. 申込方法

(1)大会参加申込用紙は那覇地区中体連野球専門部HPからダウンロードし、必要事項を記入後、
学校長の捺印を受け、試合当日に各会場の本部へ7時30分までに提出する。
(2)試合球3球、ロジン1個を提出する。
8. 企画運営責任者

那覇地区中体連野球専門部
石原孝之(神森)、一安裕次郎(城北)、安里博文(安岡)、照屋茂伸(首里)、前川克志(沖尚)、仲座康一(上山)
下地雄大(鏡原)、比嘉佑(松城)、久高陵太郎(那覇)、金城達貴(寄宮)、眞崎陽介(神森)、金城哲夫(浦西)
仲村隆太(浦添)、島袋剛(首里)、仲松一星(寄宮)、根間豊(真和志)、大浜淳一(仲井真)、比嘉英(港川)
比嘉和樹(安岡)、山里毅(浦添)、座波清匡(仲西)、花城勉(金城)、仲本政毅(小禄)、米田幹(松島)
豊見山純平(石嶺)、渡嘉敷光範(仲井真)、足立忠敬(神原)、名城磨男(久米島西)
- 運営委員

那覇地区中体連加盟校に所属する野球部全顧問
9. 参加資格

(1)那覇地区中体連加盟校に在籍する1年生で編成されたチームで、1校1チームとする。(合同チームも認)
(2)学校長が選手として本大会に出場を許可したものであること。
(3)選手の引率は、出場校の校長・教員とする。監督等については校長・教職員(常勤)とする。教職員以外のコーチに
ついては、学校長の認めた者で、地区・県に登録された者とする。
但し、ベンチ入りについては1名のみとする。
(4)硬式ボールを使用球としている団体に所属しているチームとその構成員の出場は認めない。
(5)参加資格の特例を認める。「開催基準8(6)複数合同チーム」(県に準ずる)
10. 競技規則

2018年公認野球規則及び全日本軟式野球連盟特別競技規則、特別規定を適用する。
投手の投球制限については、肘・肩の障害防止を考慮し、1日7イニングまでとする。ただし、タイブレーク方式の直前のイニングを投げきった投手に限り、1日最大9イニングまで投げるができる。タイブレークとなった場合に投げることでできる投手は、タイブレーク方式の直前を投げきった投手か、新たな投手(その日1球も投げていない選手)に限り、1日2イニングまで投げるができる。投球イニングに端数が生じたときの取扱いについては、3分の1回(アウト1つ)未満の場合であっても、1イニング投球したものと
して数える。
11. 大会規定

(1)トーナメント方式とする。
(2)競技形式はトーナメント方式及びアテスト方式とする
(3)1チームの選手参加人数の上限は規定しない。監督、記録員はそれぞれ1人、コーチは2人とする。
(4)背番号は、原則としてポジション順とする。21番以降の選手についても背番号を着用すること。
(5)試合は7回戦とし、得点差によるコールドゲームは3回以降10点差、5回以降7点差とする。
なお、決勝戦にも適用する。
日没・降雨などで試合が成立しない場合は、特別継続試合(サスペンテッドゲーム)を適用する。
(6)延長戦の8回以降からは、タイブレークを適用する。タイブレークは無死満塁の状態でも継続打順で開始する。勝敗が決しない場合は、さらに継続打順で繰返し、原則10回までとする。10回までに決着がつかない場合は、大会本部で協議の上、決定する。
12. 試合球

全日本軟式野球連盟公認内外ボールM号球とする
13. 組合せ

(1)平成30年10月19日(金)に行う
14. 表 彰

優勝チームには賞状、準優勝・3位のチームには賞状を与える。また、個人賞として
殊勲賞・敢闘賞・打撃賞一位を表彰する。(個人賞は決勝戦進出校から選出し、打撃賞は準決勝、決勝戦を
あわせた規定打席4打席以上の打者とする)
15. その他

(1)チームの責任は、引率者において、一切負うものとする
(2)今大会の上位4チームには、第29回 那覇地区中学校軟式野球1・2年生強化大会へのシード権を与える

第20回那覇地区中学校軟式野球春季1年生強化試合細則

1. 試合時間 (1) 試合は90分と計算し、その60分前までには集合する。
(2) 連続試合の場合は間隔を30分とる。
2. オーダー交換 (1) オーダー用紙は大会本部の用紙を使用する。(4部提出)
(2) 攻守決定は、前の試合の4イニング終了時(第1試合は試合開始45分前)に監督立ち会いの上、主将が行う。但し、連続試合で先発投手が主将の場合は、登録メンバーから代理を認める。
3. ダックアウト (1) 抽選番号の若い方が1塁側とする。但し、同一チームが連続して試合を行う場合は移動しない。登録された監督、コーチ、選手、記録員以外のベンチ入りは禁止する。
(2) ダッグアウト外からの選手への指示、アドバイスは禁止。
(3) ダッグアウト内でのメガホン使用は監督、コーチのみとする。(ベンチ内1個とする。)
4. シートノック (1) シートノックは、全試合後攻より行う。時間は5分間とする。
(2) シートノック時のみ、補助員(5名以内)を認める。なお、ユニフォーム、ヘルメットを着用すること。(2年生可)
(3) ノッカーは、ユニフォームを着用する。
(4) 1日で2試合を行うチームは、シートノックを1試合目のみ行う。なお、天候などにより球場を移動して試合を行う場合は、本部に確認の上、シートノックを行う場合もある。
※天候の理由でシートノックを行わない場合もある。その場合は試合時間を早めることもある。
5. 応援 (1) 選手・応援団は中学生としてふさわしい応援をする。(野次はつつむ)
(2) 応援は攻撃側のチームが優先に行う。
(3) 会場によっては太鼓による応援を禁止する場合もある。
6. 守備側と攻撃側のタイムの回数制限 (1) 捕手または内野手が、1試合に投手の所へ行ける回数は、7イニングで3度以内とする。
なお、延長戦(タイブレークも含む)となった場合は、2イニングに1度行くことができる。
また、攻撃側についても同様とする。
7. 監督が投手の所へ行く回数の制限 (1) 監督が1試合に投手のところへ行ける回数は 3回以内とする。なお、延長戦(タイブレークも含む)は、2イニングに1回行くことができる。
(2) 監督が同一イニングに同一投手の所へ2度目に行くか、行ったとみなされた場合は、投手は自動的に交代しなければならない。なお、他の守備についたときは、同一イニングには再び投手には戻れない。
8. 用具 (1) リストガード、バットリング、トレーニングバット、スプレー(滑り止め)の使用を禁止する。
(但し、マスコットバットは使用可)
(2) 手袋は、原則として「白」または「黒」を主にした高校野球対応の手袋を使用する。
(3) 全日本軟式野球連盟公認マーク(J.S.B.B.)が完全に消えた用具は使用できない。
(4) 捕手は全日本軟式野球連盟公認マーク(J.S.B.B.)が入った捕手用ヘルメット・マスク・スロットガード・プロテクター・レガースとファウルキャップを使用すること。
また、打者・走者・次打者・ベースコーチ・バットボーイは全日本軟式野球連盟公認マーク(J.S.B.B.)が入った両側にイヤークラップ(内側にはスポンジ等)のついたヘルメットを使用すること。
9. 試合のスピード化 (1) 打者・次打者・ベースコーチの4名は攻撃前のミーティングには参加せず、所定の場所に移動すること。
(2) 投球を受けた捕手は、速やかに投手に返球すること。
(3) 捕手から返球を受けた投手は、速やかに投手板を踏んで投球姿勢をとること。
(4) **次打者席では、投手が投球姿勢に入ったら素振りをしてはならない。投手も必ず次打者席に入ること。**
(5) サイン交換は迅速に行うこと。打者はバッターボックス内でサインを見る。
10. その他 (1) チームの選手(監督・コーチ含む)は同色、同形のユニフォームを着用する。グラウンドコートも同様とする。尚、監督・コーチのシューズについても同色とする。
コーチ(教職員)の服装は私服でもよい。また、記録員はユニフォームか制服とする。
(2) ストッキングの形をしっかりと統一する。
(3) 選手交代は、監督が球審に告げること。
(4) 球場内においての試合前の練習はユニフォームを着用すること。
(5) 芝生保護のため各球場において正規のシートノック以外はスパイク以外で行うこと。
(6) 球場内のバッティング練習は、バント・トスバッティング(1対1)までとする。
(7) 試合中のアップ(キャッチボール)については2組(4名以内)とする。
(8) 審判は各校から成人1名、中学2年生以上1名の計2名を派遣する。審判員は2・3年生の野球部員または**父母の協力を得て良い。**
(9) **準決勝からは那覇地区中体連野球専門部職員で行う。**

※ 大会参加に当たり、氏名、学校名、学年及び対戦結果、記録、画像等を主催者が発行・販売する大冊子、出版物、ホームページ、及びマスコミへの公表に使用することがあります。